

# 「携帯電話の電話番号数拡大に向けた電気通信 番号に係る制度等の在り方」に係る当社意見

株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ  
2011年7月11日

## Point 1

### PHSと携帯電話の番号ポータビリティの課題

- ◆これまでの経緯等からPHSと携帯電話を同一サービスと看做し、MNP(携帯電話番号ポータビリティ)を導入するには様々な課題が存在
- ◆ PHSと携帯電話を同一サービスと看做しMNPを導入する場合は、「競争評価における市場画定の見直し」と「公正競争上の配慮」を行った上で導入すべき

## Point 2

### 携帯電話番号のひっ迫状況と今後の需要

- ◆090-0を開放することや、電話番号指定時の計算方式の見直しにより番号ひっ迫時期を3年程度遅らせることが可能
- ◆終局需要を把握するためにはM2Mサービスの需要動向の見極めが重要であるが、現時点では困難

## Point 3

### 今後の方針

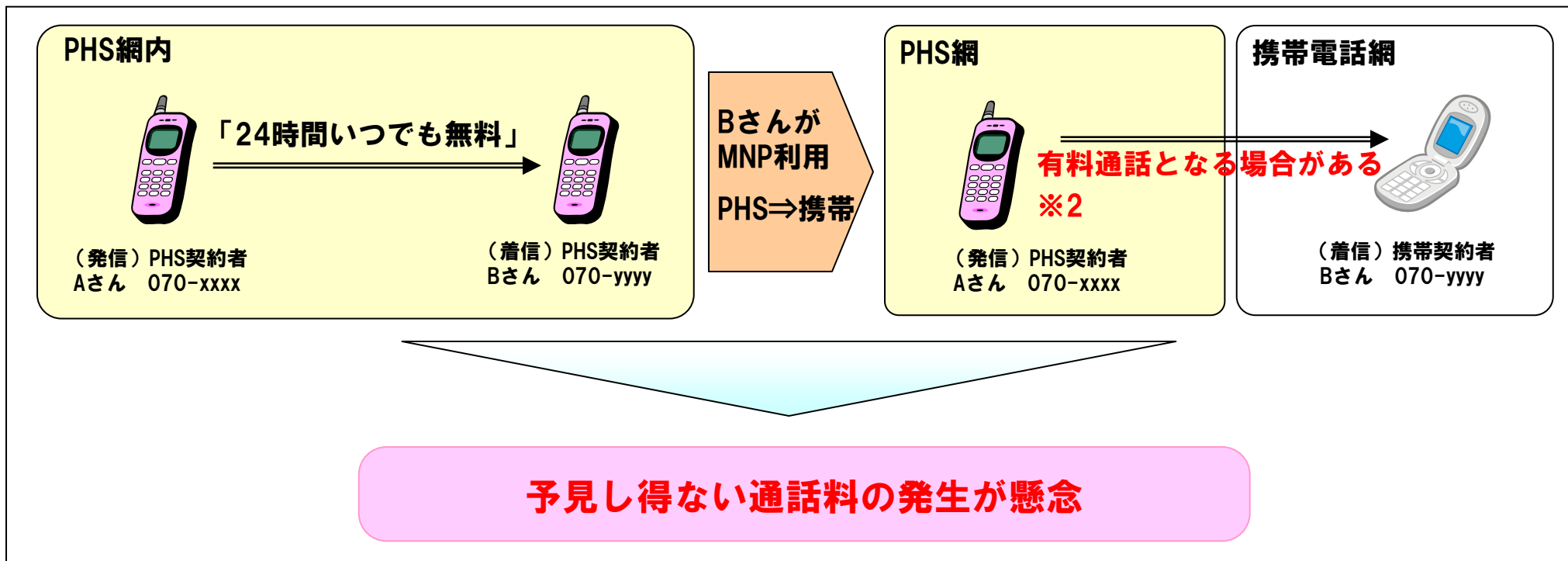
- ◆PHSと携帯電話のMNP導入について十分に議論され、課題が解決されれば、MNPを実現し番号も確保
- ◆課題が容易に解決できないと判断される場合、他の0A0番号帯の活用等、他の選択肢についても今後さらに議論を重ね、長期的な視野に立った番号計画の策定が行われることが望ましい

## 2-①. (課題1)通話料の予見性が損なわれるおそれ

◇070-070間は無料と広く一般に認識されているがMNPを導入すると電話番号では相手がPHSかどうか判別不能なため、予見し得ない通話料の発生が懸念される

(PHS⇒PHSの平均通話時間はPHS⇒携帯に比べ約3.5倍という統計データがあり、お客様は意識して利用されていると考えられる)※1

◇PHS網に特殊な呼出音を導入する案も考えられるが、様々な呼出音が濫用されると却ってお客様に混乱が生じるおそれがある



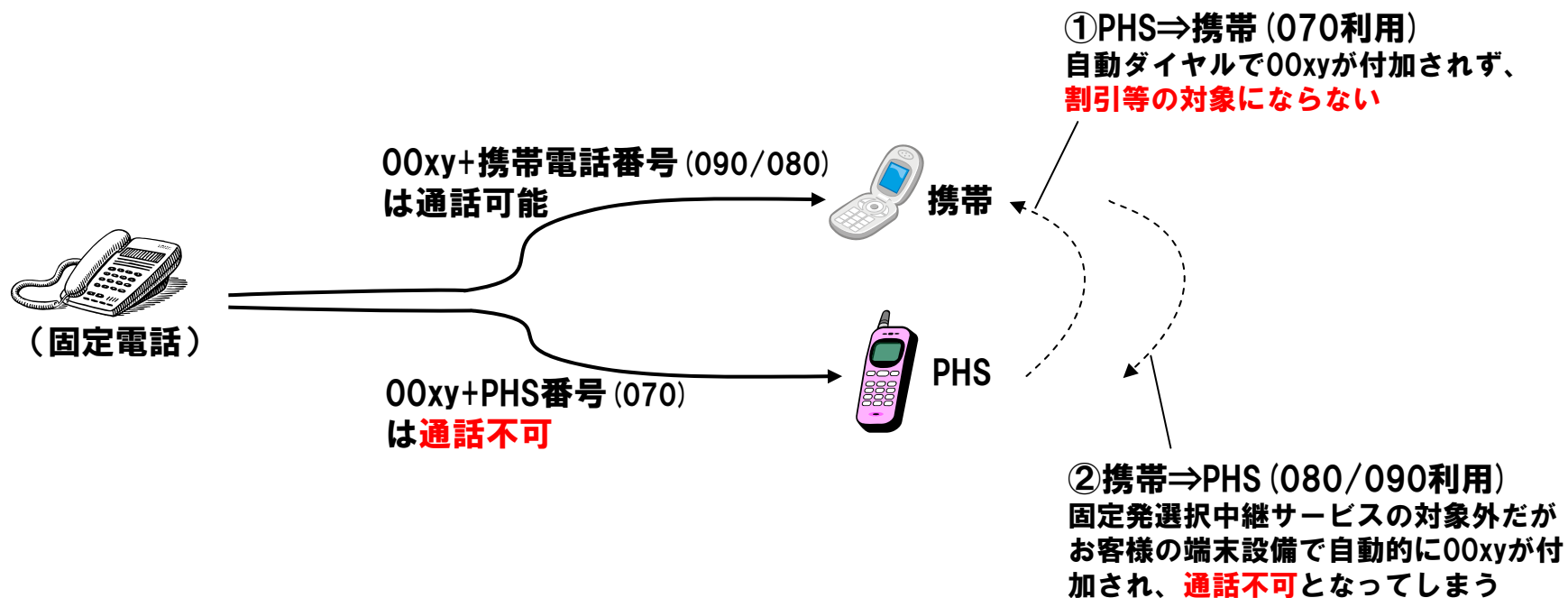
※1 「トラヒックから見たわが国の通信利用状況（平成21年度速報版）」の相互通信状況（通話回数、通話時間）から算出

※2 無料通話とするには「だれとでも定額」等のオプション契約が必要。

## 2-②. (課題2) 選択中継サービスの利便性に支障が生じるおそれ

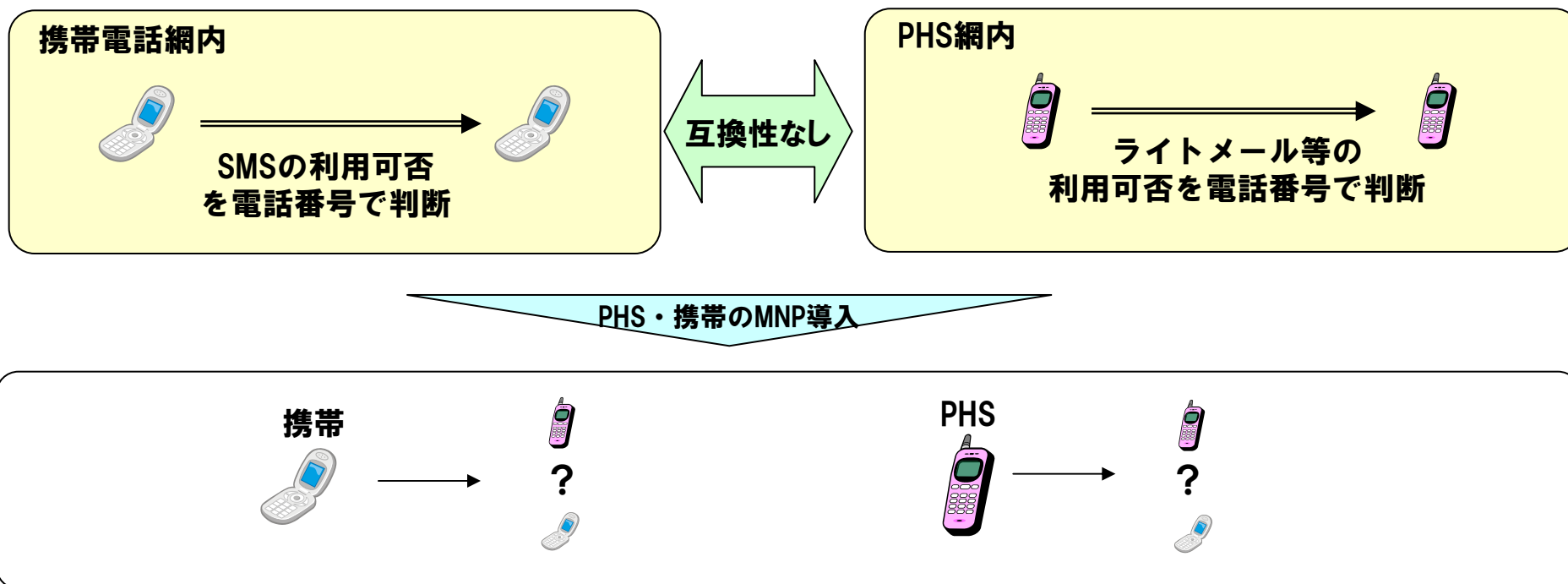
- ◇00xyをダイヤルし中継事業者が設定した安価な料金が適用となる「固定発選択中継サービス」を様々な事業者が提供 (PHS着は未提供)
- ◇090/080ダイヤル時に自動的に00xyを付加する「**自動ダイヤル機能**」を電話機(ビジネスホン、PBX等)に**搭載**
- ◇PHSから携帯電話へMNPすると自動的に00xyが付加されず安価な料金が適用されない等、**ユーザ利便性に支障が生じる**

### ○固定発携帯着00xy通話サービス



・選択中継サービス提供事業者例(NTT東/西日本社、NTT-コム社、KDDI社、ソフトバンクテレコム社、フュージョン社、九州通信ネットワーク社等)

- ◇平成21年10月の「接続ルールの見直し」において携帯電話のSMS接続機能が検討対象として整理され、携帯電話間のSMS相互接続が実現(7月13日開始予定)
- ◇PHSと携帯電話においてショートメッセージサービスは相手先の電話番号により利用可否が判断できる状態となるが、PHSと携帯電話間のMNPを導入した場合は、両者のショートメッセージサービスには互換性がなく相互接続できないため、**相手先の電話番号によりショートメッセージサービスの利用可否を判断することができなくなる**



携帯電話からもPHSからも相手の電話番号だけではショートメッセージサービスの利用可否について事前に判断できない

◇PHSと携帯電話のMNPが導入され、電話番号で両者が区別できなくなるにより通信事業者や法人のお客様を含む様々なプレーヤーに影響が発生する可能性がある

◇PHSと携帯電話の電話番号による識別性は様々な場面で利用されており、主に発信者側の立場からは料金の予見性が損なわれる課題、着信音側では料金を負担する条件に起因する問題が発生すると考えられる

1. 発信者側から相手を識別できないことによる課題

【事例】

①企業内通信料管理

企業内における部署別通信料の管理(管理会計等に活用)が困難となる可能性がある。

②国際電話用コーリングカード

海外から日本のPHS・携帯に向けた発信について、料金を電話番号により区別しているため、プリペイドカード提供価格等見直しが必要となる可能性がある。

2. 着信側にて相手を識別できないことによる課題

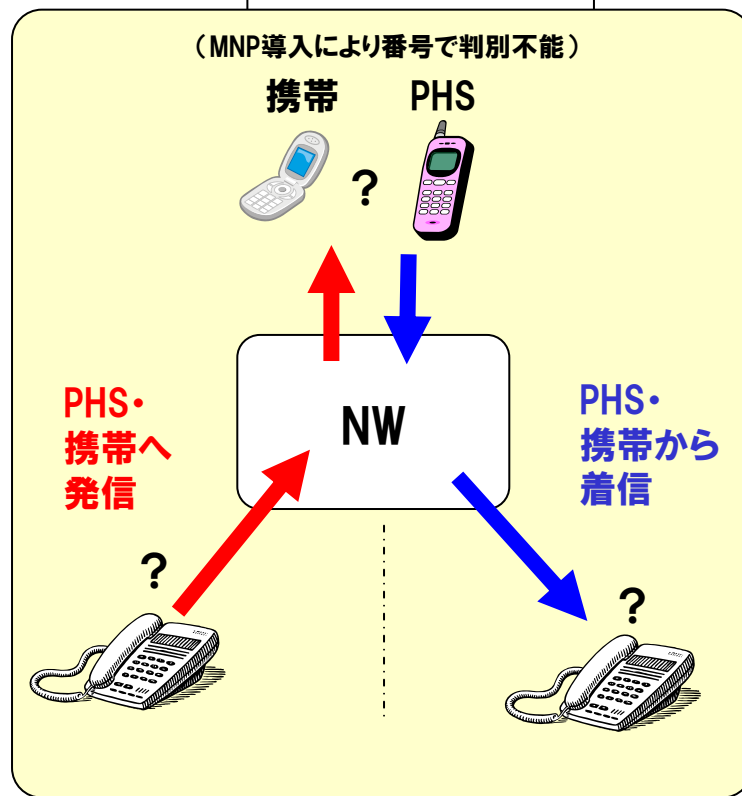
【事例】

③着信課金サービス

フリーダイヤル等の着信課金サービスで発信回線種別(PHSか携帯電話を識別)を選択するサービスが利用できなくなる可能性がある。

④ナビダイヤル

現状PHS発信はサービス対象外としているが、発信者番号では区別ができず、仕様変更が必要となる可能性がある。



◇これまで競争評価においてPHS市場は、携帯電話市場の部分市場とされ区別されてきたが、PHSと携帯電話に横断的なMNPを導入する場合は同一市場として評価されるべき

◇MNPの実施にあたっては、公正競争促進の観点から、その開始時期等の条件において**特定の携帯電話事業者が優位に取り扱われることのないよう配慮が必要**

#### ●競争評価の市場画定の見直し

##### これまでの整理:

PHSは携帯電話の部分市場(個別市場)

##### MNP導入の背景:

PHSと携帯電話は同一サービスとして看做すことが可能  
⇒代替性のあるサービスとして認識

##### 今後の競争評価の在り方:

競争評価における市場区分を撤廃し、一つの市場として画定し競争評価を実施

##### 携帯電話市場

約1億2千万契約



##### PHS市場

約4百万契約

#### ●PHSと携帯電話のMNP導入における公正競争上の配慮

##### MNP導入における懸念事項

- ・特定の携帯事業者へのお客様移行を条件面で優遇
- ・特定の携帯事業者への移行が先行的に実施される

##### MNPの在り方

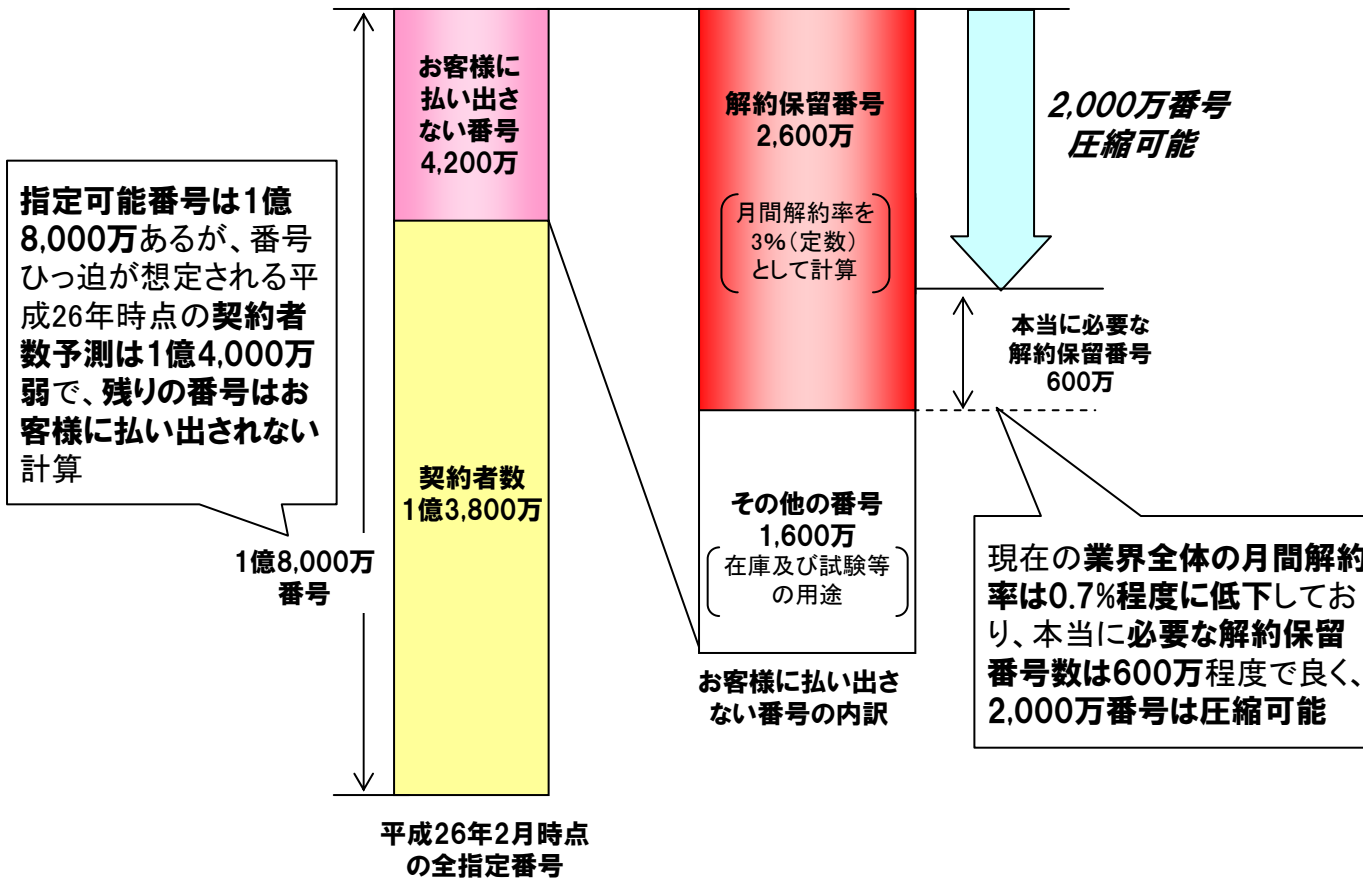
- ・お客様の選択の自由を尊重し、関係会社間といえども故意にお客様を誘引するような条件設定等は慎むべき
- ・特に全事業者の取扱いは同時に開始すべきであり、仮に他社に先んじて特定の会社間でのMNPを実施したとすると、特定の事業者間でしか利用できない電話番号が存在することとなり、公正競争上の問題があることに加え、お客様にとって複雑で分かりづらく、却って利便性を損なう



## 4. 携帯電話番号のひっ迫状況の分析

- ◇現状のままでは平成26年2月に指定可能な番号(1億8,000万番号)が全て指定されると予測されているが、その時点での契約者数予測は約1億4,000万であり、**4,000万番号程度のお客様へは払い出されない番号が存在**
- ◇上記の払い出されない番号数については、その解約保留番号数を導き出す計算式が現実と乖離しているため、**当該計算式を見直すと共に090-0の開放を合わせて行えば、更に電話番号の指定が可能となり、合計3年程度のひっ迫の延期が可能**

### ●番号ひっ迫状況の試算



### ●延長措置と期待される効果

#### 1. 解約保留番号数の適正化

1,000万番号確保が可能  
(左記2,000万番号の内、予備分を除いた約半分)  
⇒1.5年程度の延長を期待

#### 2. 090-0の開放

1,000万番号確保が可能  
⇒1.5年程度の延長を期待

### ◎結論

合計3年の延長期間を考慮すれば、番号拡大対策の結論は平成29年2月まで延期することが可能



## 5. 電話番号帯拡大に向けたひっ迫対策についての評価

◇携帯電話番号のひっ迫問題に対して070番号を携帯電話へ開放し、併せてPHSと携帯電話のMNPを実現することは、導入における課題が解決されれば有力な案。

◇上記課題解決が困難である場合は、090-0の開放や申請方式を見直す等の番号ひっ迫の延長措置を実施し、可能な限りM2Mの需要動向や標準化等の状況を見極め、070以外の0A0番号の開放等も含めて検討が必要。

課題	ひっ迫対策		070番号帯拡大	090-0の開放と 番号申請方式の見直し	【参考】070以外 (030、040等)
	MNPあり	MNPなし			
これまでの番号計画との 継続性	○	○	○	○	△
確保できる番号容量	○	△	△	△	○
新サービス用番号の確保	○	○	○	○	△
お客様の事業者選択拡大	○	—	—	—	—
MNP導入課題の大きさ ①通話量の予見性 ②選択中継 ③SMS ④その他	×	△	○	○	○